

嶋満神社便り

平成二十七年一月号(第十四号)

発行 嶋満神社奉賛会

皆様、あけましておめでとうございます。

今年も会員の皆様と当社にとって幸せな一年となりますよう、お祈り申し上げます。

さて今年も暦によりますと昭和九十年に当たる年、なんだか一つの節目の年のような気がし、よろずのことに神様のおかげがありますようにと願わずにはいられません。

元日の朝の当社は早朝の雪がうっすらと積もり、さながら塩で清めたかのように荘厳な感じがしておりました。節目の年の瑞兆なのでしょうか。(その後のドカ雪にびっくりでしたが)



(雪の参道)

まだお参りをされていない会員様方は是非当社へお越しになり、日ごろの思い、今年成就したい願い等々、千二百年以上も昔から鎮座されると云われる嶋満の神様にお願いをしてみてください。きっと願いがかなうことでしょう。

舞鶴湾遊覧船一万人突破

暮れの新聞によりますと舞鶴湾を巡る遊覧船「海軍ゆかりの港めぐり遊覧船」の乗客数が年々増え続け、平成二十六年には就航以来初めて一万人を突破したそうです。海自の護衛艦や造船所で建造中の巨船が間近で見ることができるので大人気だとか。

現代に頼りになる海の守りは海自、そして海保ですが、かつては我が嶋満神社が白糸湾を襲う妖族どもに山の上からにらみを利かせていたものです。．．．実際には八く十世紀初めにかけて三十四回も訪れたという渤海国の使者であったり、九世紀に頻発した新羅からの侵入であったろうと、嶋満明神縁起は伝えていきます。

現在はすっかりビル群の陰に隠れて山上から海は見えませんが、往時は白糸湾につき出た岬として下界を睥睨していたのでしよう。



(元日の白糸湾)



(前島埠頭から見た当社)

明治四十四年に著された「新舞鶴案内記」には当社の小山のことを「出雲通り海岸にある青螺の如き小山」、「古木鬱蒼全山を覆い緑波激瀧島脚を洗い樹色水光掩映し風光幽雅一幅の小品畫を見る如し」と紹介しています。

筆者には判読不能ですが、なんとなく海辺の小山の百年以上前の美しい風景が目に見えるようではありませんか(汗)

最後になりましたが新しく入会された会員さんをご紹介します。

宮下裕蔵さん(東浮島)、谷川真司さん(浜)。どうぞよろしく願っています。

また沢山のお供えをありがとうございました。